

対象	小学校 5 学年以上
教科	国語科・特別活動
該当 単元	<p>小学 5 年 (その②)</p> <p>「言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和語、漢語、 <div style="text-align: right;">外来語</div> 朝の会・帰りの会 ・ 先生の話 (講話) <div style="text-align: right;">など</div>
教科書	光村図書等
掲載日	2019. 4. 7. 朝刊 12 版 35 面

【活用にあたって】

元号について考えるには今年が絶好の機会だと思います。国語の指導要領には「言葉の豊かさに気付く」という内容が示されています。「言葉のリズムを楽しんだり、言葉を用いて発想を広げたり、言葉を通して人と触れ合ったりするなど、言葉のもつよさを十分に実感すること」と。

音声言語の学習は、地域による方言やイントネーションの違いから、標準語を基本としながらもなかなか掘り下げてみる機会が少ないのではないのでしょうか。

「令和」と口に出してみると、大石さんの指摘する「ラ行の言いにくさ」を感じたり、起伏型と平板型の違いを感じたりできると思います。

「話す」という側面からのワークシートですが、「書く」という側面からのワークシートも97に用意しました。併せて活用ください。

解答例

問1：音としてすっきりしている。

問2：①れいゝわ ②れいーわ

問3：昔ほど元号を使わない。今の時代、新元号が生活自体になじむスピードはちょっと遅いかもしれないから。予想は根拠を明確にして書けているとよい。